

公益社団法人日本理学療法士協会東北ブロック協議会

平成24年度第1回理事会会議録

議事録作成：大垣愛（宮城県）

◆概要◆

日時：平成24年4月28日（土）13:00～16:00

会場：いわて県民情報交流センターアイーナ

802会議室

出席者（敬称略）

【理事】 会長：渡邊好孝（宮城県）、副会長（議長）：

高橋仁美（秋田県）、理事：伊藤和夫、川口徹（青森県）、櫻田義樹、及川龍彦（岩手県）、大場みゆき（秋田県）、榊望（宮城県）、高橋俊章、早坂健次（山形県）、山口和之、舟見敬成（福島県）

【監事】 安藤等（宮城県）

【事務局】 中野渡達哉、菊地雅行（宮城県）

【学術局】 及川龍彦（学術局担当理事）、遠藤武秀（学術局長）、米沢勇悦（学術大会部長）、畠山和利（機関誌編集部長）、小野部純（教育研修部長）

【第29回大会】 佐々木重利、川村美博、内記明信（岩手県）

【第30回大会】 三上綾子（青森県）

【第31回大会】 舟見敬成（福島県）

議事

報告事項

I. 監査報告（報告者：安藤等）

安藤監事より平成23年度東北ブロック協議会、第29回東北理学療法学会の会計、監査を実施し書類等適正に処理されていることが報告された。

第30回大会記念基金、あり方委員会の終了など事業が縮小しているため、今後の繰越金増額が予想され、新規事業、学会補助金などの再度見直しが必要であることが伝えられた。

II. 第29回学術大会（岩手県理学療法士会）報告

（報告者：川村美博）

第29回東北理学療法学会最終報告と決算が別紙資料に沿って報告された。

及川理事より今回算出された収支差額123,902円を東北ブロック協議会へ返納すべきか、チャリティ学会という位置づけから東日本大震災関連の義援金とすべきかの審議が提案された。多数決の結果、東北ブロック協議会から学会側に学術大会支援金として支出している経緯も踏まえ、第29回大会余剰金は東北ブロック協議会へ返納し、その用途については次回の理事会で検討することとなった。

III. 第30回学術大会（青森県理学療法士会）報告

（報告者：三上綾子）

企画案、日程案、予算案について、別紙資料に沿って以下の報告がされた。

1. 概要

1) テーマ：「理学療法イノベーション」

2) 期日：平成24年11月17日（土）、18日（日）

3) 会場：リンクステーションホール青森
（青森市文化会館）

4) 大会役員

大会長：川口徹（青森県立保健大学）、副大会長：小村博（身体障害者更生施設津麦園）、準備委員長：
三浦雅史（青森県立保健大学）

5) 参加費：会員¥4,000、事前登録¥3,500、非会員¥5,000、学生¥1,000、一般無料

2. 内容

1) 演題発表：ポスター発表50題、口述24題。募集期間は平成24年5月28日（金）～7月6日（金）

2) 大会長講演：「理学療法イノベーション（仮）」

3) シンポジウム：「理学療法イノベーション（仮）」

シンポジスト渡邊好孝（松田病院）／金沢善智（株式会社バリオン・介護環境研究所所長）／金子文成
（札幌医科大学）

4) セミナー：①伊藤俊一（埼玉県立大学）「腰痛の理学療法：現在・過去・未来（仮）」、②浅川育世
（茨城県立医療大学）「ロボットスーツHALと理学療法（仮）」③倉林準（杏林大学）「理学療法とリ
ハビリテーション医工学（仮）」④三浦雅史（青森県立保健大学）「理学療法分野における知的財産（仮）」

5) 市民公開講座：斉藤春香（北京オリンピックソフトボール日本代表監督、現在、弘前市教育委員会）
「人生はソフトボール（仮）」

6) ランチョンセミナー（調整中）

IV. 第31回学術大会（福島県理学療法士会）報告

（報告者：舟見敬成）

第31回東北理学療法学術大会趣意書案、企画案、予算案について、以下の通り報告された。

1. 概要

1) 期日：第一候補平成25年11月9日（土）～10日（日）第二候補平成25年11月16日（土）～17日（日）

2) 会場：ビッグパレットふくしま（予定）

3) 大会役員

大会長：山口和之（福島県理学療法士会会長）

副大会長：横島啓幸（太田総合病院附属太田西ノ内病院）、遠藤敏裕（郡山健康科学専門学校）、舟見
敬成（総合南東北病院）、準備委員長：二瓶健司（星総合病院）、副準備委員長：吉崎邦夫（郡山健康
科学専門学校）、鈴木一明（三春町立三春病院）、事務局長：儀間裕貴（郡山健康科学専門学校）、学
術局長：平野雄三（南東北春日リハビリテーション病院）、運営局長：佐藤竜太（トータルヘルスクリ
ニック）、副運営局長：荻原久佳（郡山健康科学専門学校）

2. 予算案

収入：学会援助金600,000円、抄録発送援助金400,000円、会場整理費7,000,000円、広告協賛500,000円
の総収入額8,500,000円。

支出：会場設営費4,000,000円、ネームカード費150,000円、発送通信費200,000円、講師費800,000円、
会議・人件費900,000円、事務費120,000円、外部委託費（印刷費含む）1,800,000円、抄録発送費250,000
円、雑費100,000円、予備費180,000円の総支出額8,500,000円。

V. 第32回学術大会（山形県理学療法士会）報告

（報告者：遠藤武秀）

次回の理事会にて大会長、準備委員長、テーマについて発表することが述べられた。

VI. 学術局報告

1. 学術大会部（報告者：遠藤武秀）

遠藤学術局長より学会のあり方に関して大会規模、予算、企画、運営、日程、大会イメージについて別紙資料に沿って報告がされた。

渡邊会長からブロック長会議において、日本理学療法士協会へブロック補助金の増額を依頼してはどうかとの提案がなされた。それについて山口理事より、要望を提出してもらえれば審議可能事項ではないかと意見が述べられた。

渡邊会長より収入を増やすための方針について、具体的なコンセプトや内容、参加人数の収集方法などを提示することで、より魅力ある学会となるのではないかと意見が述べられた。学会のあり方について、明確な指針がないため指針を立てた後、具体案を提示することでまとまりあるものになるのではないかと意見が川口理事から述べられ、あり方については今後継続検討することとなった。

2. 機関誌編集部（報告者：畠山和利）

第24号編集業務報告に関して、震災の影響から投稿数減少が危惧されたが16編の投稿があり、そのうち15編を採用したことが報告された。例年同様、7月に発行できることが述べられ、印刷部数は4,600部発行予定であることが報告された。

3. 教育研修部（報告者：小野部純）

第3号議案に提出した資料に沿って報告された。

昨年度の支出が0円であることや、必須教育プログラム制度廃止により今後必須教育プログラム研修会の開催はないだろうと述べられた。今後の研修部はどの様に運営していけば良いかについて、学会とともに研修会を実施した場合に共に運営していく意見が挙げられており、今後継続して検討されることが報告された。

協会主催の被災地支援プログラムとして、宮城県（6月17日）、福島県（6月24日）、岩手県（9月30日）に実施予定で、1日4～5テーマの開催見込みであることが報告された。

臨床実習指導者研修会が8月19日～20日の二日間に渡り、宮城県で開催される予定であることが述べられた。

審議事項

I. 第1号議案：平成23年度東北ブロック協議会決算の承認に関わる件（提出者：中野渡達哉）

- ・別紙会計資料の平成23年度東北ブロック協議会決算が報告された。
- ・会費収入で予算と比べ143,200円増額したこと、加えて、第28回大会の余剰金として約12万円が追記されることが報告された。
- ・支出の部では予算に比べ200,065円減額し、学術費で151,590円予算が残ったことが報告された。
- ・当期支出合計差額は622,439円となり繰越収支差額は4,450,874円。基金に関しては例年通り150,000円の繰入金収入とし残高は600,000円の計上。貸借対照表総括表に関して現金預金は繰入金収入を計上し、資産合計は4,450,874円。

II. 第2号議案：平成24年度東北ブロック協議会予算案の承認に関わる件（提出者：中野渡達哉）

- ・別紙会計資料の平成24年度東北ブロック協議会予算案について報告された。
- ・会費収入では会員増員を想定し、400,000円の増額を見込んでいるとの報告がされた。第29回大会余剰金については東北ブロックに返納されることを考慮し、123,902円の記載をしたことが述べられた。
- ・当期収入合計は5,069,902円、前年度と比較し459,902円の増額を見込んでいる報告がされた。
- ・支出に関しては学術大会費の通信運搬費で第30回大会抄録発送費として400,000円を想定していること、機関誌発行費では部数は増加するが業者に委託することで安くできるため、1,850,000円とされていることが述べられた。
- ・事務局での広告事業費はHP運営にかかる費用であることが説明され、情報集約会議費として109,000円を計上していることが説明された。
- ・前回までは学術局会議に生涯学習担当者会議を含んでいたが、今年度は会議が別々に開催されるため科目を別に計上したことが報告された。
- ・繰入金第30回大会記念基金が今年度執行されるため、昨年度よりも150,000円の支出減額が見込まれていることが報告され、当期支出としては240,098円支出減額となることが見込まれていることが述べられた。
- ・学術大会支援基金の繰入金収入は例年通り150,000円、残高が750,000円、第30回大会記念基金に関しては今年度支出されるため残高0円となっていることが報告された。
- ・大場理事より基金はいつも一定額入れていたため、継続して良いのではないかとの意見があり、基金については5年毎に更新することで議案承認となった。

Ⅲ. 第3号議案学術局教育研修部の在り方に関わる件（提出者：小野部純）

- ・第3号議案に関しては学術局教育研修部の報告と重複するため省略された。

Ⅳ. 第4号議案研修会の情報共有に関わる件

（提出者：中野渡達哉）

- ・前回理事会において、研修会情報のホームページへの掲載のため東北ブロック協議会事務局との連絡を行う担当者が各県士会から選出されることとなっていたが、未だ出揃っていない状況であることが述べられた。
- ・各士会から担当者1名選出することが再確認された。

その他

I. 山口理事より、国内の産業構造の変化や世界における日本の現状の位置づけの問題について報告があった。理学療法士としてのステータスを作るためには我々が持ち得るエネルギーを惜しみなく発揮し、様々な改革を行っていくべきであることが提言された。